

平成 19 年度 大和市障害者自立支援協議会 就労部会報告

自立支援協議会 就労部会

1. はじめに

平成 19 年度の自立支援協議会就労部会では、障害者の就労を推進することを目標に、今年度は知的障害者の就労支援の活性化につながるようにアセスメントシートを作成することとした。

2. 背景

大和市では平成 7 年より就労相談窓口を設置し、これまで約 250 名の就労実績をあげてきている。ただし近年では、知的障害者からの就労に関する新規相談が減少傾向にあり、就労支援のあり方の再検討が必要な段階である。

今後は、長期にわたり作業所等の施設に通所している方、就労支援の対象と捉えられてこなかった方、これらの方々への支援についても検討し、就労支援候補者を拡大していく必要があると考えられる。

知的障害者の就労支援を進めるためには、対象者に対する保護者や施設職員からの働きかけが重要な要素となるため、まずは保護者と施設職員が企業就労にチャレンジさせてみたいと思えるような環境作りが必要な状況である。

3. 知的障害者を対象としたアセスメントシートの作成について

今年度は、アセスメントシートを以下の目的で作成した。

- ① 施設職員が対象者のアセスメントシート作成を通して、就労支援を行う上で必要な視点を認識できるようにする。
- ② 就労支援は、特別な支援ではなく、日々施設で行われる支援の積み重ねであることを認識できるようにする。

上記のことを踏まえ、まずは、施設職員が「就労支援に取り組んでみよう。」「就労支援を意識した上で、利用者を捉えることにより、これまで就労支援の対象と考えてこなかった方を対象者とする。」と認識できるツールにしたいと考え、作成にあたった。

作成にあたって部会では下記のような意見が出た。

- ・ 記入者によって偏りが出ないように、アセスメント実施にあたって、どのように共通認識（評価基準）を持てるかが重要になる。
- ・ 就労支援の経験が乏しいため、アセスメント作成、実施するにあたり、視点が良く分からない。
- ・ アセスメントについては、対象者の職業能力を評価するのではなく、どのような工夫があれば就労に結び付くかということを知るためのツールであり、支援者が就労支援に向けて共通言語・視点を持つための資料である。
- ・ 就労支援を行う上では、まずは支援者側の意欲と、就労支援について基礎的な知識

が必要となるため、啓発を含め、まずは、支援者が勉強をできる機会を設けることを考えても良いのではないか。

- ・ アセスメントについては情報共有を前提としているため、個人情報として取り扱いには注意が必要。(なんでも・そうだん・やまとの個人情報取扱同意書で対応)

4. 作成したアセスメントシートの運用及び改善について

平成 20 年度より運用を開始し、アセスメントシートを使用しながら、必要な修正を行っていく。運用については、ハローワークの協力を得ながら、直接支援を行う職員同士でワーキンググループ（ワークステーション菜の花、ふきのとう舎、福田の里分場、グリーンハウス分場、自立支援センター）を立ち上げることを検討している。各自が実施したアセスメントシートを持ち寄り、運用方法の確立、実効性についての検証、修正を行っていくことで、職員の就労支援能力の向上、求職者の情報共有と情報蓄積（求人情報の共有については、圏域自立支援協議会で検討、整理）の場となるよう活動していきたい。

また、ワーキンググループの活動状況を他の施設にも報告していくことにより、就労支援を身近な問題として認識してもらい、参加施設が増えていくように働きかけていく。

なお、身体・精神障害者向けアセスメントシートの作成についても必要性を含め検討する。

4. 就労部会として来年度の活動について

来年度の活動については、検討課題として挙げられているのは次のとおり。

- ① 市による知的・精神障害者の雇い入れ検討に向けた働きかけ。[雇用の場の拡大と市の対応としての宣伝効果]
- ② 精神障害者を対象とした就労支援について。[受け皿の少なさへの対応策と各機関の役割分担の確立]

上記 2 点については、3 月に開催する部会にて検討課題の優先順位等、整理を行い、活動方針を決定していく。